

1. はじめに

東京大学大学院医学系研究科地域看護学分野は、平成 20 年に発足 17 年目を迎えました。

平成 20 年度は、博士 2 名、修士 6 名が、修了することができました。特に、平成 18 年 4 月から開設された修士課程保健師コースは 2 期生 2 名が修了し、1 期生と合わせて 3 名が自治体に保健師として就職し、活動を始めました。当教室で育った博士課程と修士課程の修了生が、教育研究の場に加え、実践の場にも広がり、その質を向上させていくことができることを願っています。

また、平成 17 年から 4 年間、日本看護系大学協議会「看護学教育評価機関検討委員会」の事務局機能を当教室が担い、看護系大学・大学院の看護学領域の専門分野別評価を遂行してきましたが、その役割を終えることができました。本事業は、2 年に渡って文部科学省の大学評価研究委託事業に選ばれたため、計 6 つの大学での試行評価を実施することができました。また、同じく日本看護系大学協議会「国際活動推進委員会」の一環として、The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars を、聖路加看護大学井部俊子学長と共同で開催することができました。

当教室が長らく取り組んできた 24 時間訪問看護に関する研究は、以前から一緒に研究を行ってきた滋賀県に加え、新たに福岡県でも 4 カ所の保健所との共同研究が始まり、少しずつ発展してきています。保健師が地域看護の質保証を行う役割、つまり、「地域を看護する」役割はますます大きくなっていくと考えられます。今年も本研究を発展させたいと考えています。

看護教育に関しては、保健師看護師統合カリキュラムの弊害が色々言われるようになり、大きな動きが出てきつつあります。看護が人々の健康に責任をもって役割を果たすことができるように、将来を見据えて、よりよい方向に歩みを進めていきたいと思いをします。

当教室の活動成果は、毎年年報としてまとめております。本年も平成 20 年度の活動をまとめることができました。ご高覧いただき、ご助言、ご指導を賜れば幸いです。

教室員一同、研究と教育に更に努力を続けたいと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻の程、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

平成 21 年 4 月

東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻地域看護学分野

教授 村嶋幸代

2. 研究業績

(1) 原著・報告

Arimoto A, Murashima S

Utilization of parenting groups and consultation services as parenting support services by Japanese mothers of 18 month old children

Japan Journal of Nursing Science, 5(2), 73-82, 2008

Kobayashi S, Yamamoto-Mitani N, Nagata S, Murashima S

End-of-life care for older adults with dementia living in group-home in Japan

Japan Journal of Nursing Science, 5, 31-40, 2008

Murayama M, Taguchi A, Murashima S

Differences in Psychosocial Factors Among Novice, Experienced, and Veteran Health Promotion Volunteers in Japan

Public Health Nursing, 25(3), 253-260, 2008

Watai I, Nishikido N, Murashima S

Gender Difference in Work-Family conflict among Japanese Information Technology Engineers with Preschool Children

J Occup Health, 50, 317-327, 2008

Matsuzaki M, Haruna M, Ota E, Sasaki S, Nagai Y, Murashima S

Dietary folate intake, use of folate supplements, lifestyle factors, and serum folate levels among pregnant women in Tokyo, Japan

J.Obstet.Gynaecol. Res, 34(6), 971-979, 2008

Ota E, Haruna M, Matsuzaki M, Honda Y, Sasaki S, Yeo S, Murashima S

Comparison of body fat mass changes during the third trimester and at one month postpartum between lactating and nonlactating Japanese women

BioScienceTrends, 2(5), 200-205, 2008

武内奈緒子, 村嶋幸代

血液透析患者の特性・信念およびセルフケアとの関連

日本看護科学会誌, 28(4), 37-45, 2008

中西三春, 長江弘子, 永田智子, 服部啓子, 新野由子

病院における高齢者への退院支援の実施状況の調査—在宅ケア事業所の関与に着目して—

日本公衆衛生雑誌, 55(7), 456-464, 2008

(2) 総説

大島浩子, 村嶋幸代

半側空間無視を有する脳卒中患者の機能的予後に関する文献検討

日本看護科学会誌, 28(2), 62-69, 2008

(3) 解説

村嶋幸代

会長講演 人々の健康と社会をまもる看護の研究—地域看護の立場から

日本看護科学会誌, 28(1), 52-61, 2008

小池智子, 山田雅子, 永田智子, 堀井とよみ, 村松静子

シンポジウム I ひととケアと地域をつなぐ在宅ケアのニュー・デザイン

日本看護科学会誌, 28(1), 73-39, 2008

村山洋史, 兒島智子, 戸丸明子

世田谷区地域づくり評価モデル事業

マンスリー保健センター 2008年8月号

村嶋幸代, 田口敦子

特集 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)について 解説 高齢者の在宅看護について—自治体の戦略としての訪問看護体制の整備—

自治フォーラム, 584, 17-24, 2008

村嶋幸代, 臺有桂

特集 このままでいいのか臨地実習 現場の課題と、そこでの工夫 わたしたち、こんな実習をしています ②修士課程における実習 東京大学大学院修士課程「保健師コース」

保健師ジャーナル, 64(5), 426-431, 2008

村嶋幸代, 臺有佳, 有本梓, 田口敦子, 永田智子

連載 保健師教育の未来 東京大学「保健師コース」の実践をもとに、上乘せ教育の可能性を考える1 修士課程「保健師コース」開設の意図と経過

保健師ジャーナル, 64(8), 742-747, 2008

関根綾希子, 馬場千恵, 土屋由利子, 小澤嘉子, 小椋栄子, 佐々木峯子, 村嶋幸代

連載 保健師教育の未来 東京大学「保健師コース」の実践をもとに、上乘せ教育の可能性を考える2 「継続的家庭訪問実習」の実際

保健師ジャーナル, 64(9), 856-861, 2008

関根綾希子, 福永紀子, 村嶋幸代

連載 保健師教育の未来 東京大学「保健師コース」の実践をもとに、上乘せ教育の可能性を考える3
「地域診断・活動展開実習」の実際

保健師ジャーナル, 64(10), 964-969, 2008

馬場千恵, 平尾敦子, 本橋千恵美, 村嶋幸代

連載 保健師教育の未来 東京大学「保健師コース」の実践をもとに、上乘せ教育の可能性を考える4
「地域ケアマネジメント実習」の実際

保健師ジャーナル, 64(11), 1062-1067, 2008

村嶋幸代

連載 保健師教育の未来 東京大学「保健師コース」の実践をもとに、上乘せ教育の可能性を考える
最終回 これからの保健師教育の可能性を探る 上乘せ教育の必要性と方向性

保健師ジャーナル, 64(12), 1148-1153, 2008

(4) 著書

村嶋幸代

高齢者の看護、高齢者の介護

老年医学テキスト, 改訂第3版, 55-59, 2008

村嶋幸代, 永田智子 (分担執筆)

第4章 退院支援の実際

チームで行う退院支援 (松下正明監修). 東京: 中央法規出版, 2008, 148-159.

永田智子 (分担執筆)

4章 看護の継続性と療養支援システム

在宅医療と訪問看護・介護のコラボレーション (前川厚子編著). オーム社, 2009, 33-63.

(5) 報告書

村嶋幸代, 雨師みよ子, 井ノ口佳子, 小林澄子, 佐々木静枝, 山田恭子, 福田敬, 永田智子, 田口敦子, 桑原雄樹

平成 19 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金 訪問看護事業の報酬体系のあり方に関する検討報告書

全国訪問看護事業協会, 2008

松下正明, 天本宏, 井伊久美子, 上野桂子, 織田正道, 神津仁, 迫田朋子, 佐藤美穂子, 鷺見よしみ, 取手涼子, 武藤正樹, 村上紀美子, 村嶋幸代, 宇都宮宏子, 設楽美佐子, 千葉由美, 永田智子, 乗越千枝, 山本則子

平成 19 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業 在宅医療移行管理のあり方に関する研究報告書

医療経済研究機構, 2008

永田智子, 鷺見尚己

厚生労働科学研究費補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業 利用者の視点に基づく医療連携・退院支援のアウトカム指標の開発—ケアの場の移行に伴って発生する患者・家族の療養生活上のニーズに焦点をあてて—

平成 18～19 年度総合研究報告書, 2008

村山洋史 (分担執筆)

世田谷区地域づくり評価モデル事業

(社) 全国保健センター連合会, 2008 年 3 月

(6) 学会講演等

Murashima S (Keynote Session)

The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars

Doctoral Education in Nursing: Progress, Contributions and Challenges

Tokyo, St. Luke's College of Nursing, Mar.13 2009

(7) シンポジウム・セミナー等

村嶋幸代 (座長)

第 50 回日本老年医学学会学術集会

一般演題 (ポスター)

幕張メッセ, 2008 年 6 月 19 日

村嶋幸代 (講演・講師)

第 34 回神経研夏のセミナー

「地域看護の機能と保健師活動の展望」

東京都神経科学総合研究所 1 階会議室, 2008 年 6 月 23 日

島村珠枝 (講師)

多剤耐性結核患者の病気の受けとめと入院生活で感じていること

平成 20 年度結核研究所保健看護学科研修「保健師対策 5 日間コース」(第 1 回・第 2 回)

東京都 (財) 結核予防会結核研究所, 2008 年 6 月 24 日 (第 1 回), 9 月 9 日 (第 2 回)

島村珠枝 (講師)

多剤耐性結核患者の病気の受けとめと入院生活で感じていること

平成 20 年度結核研究所保健看護学科研修「夏季集中コース」

東京都 (財) 結核予防会結核研究所, 2008 年 7 月 29 日

島村珠枝 (講師)

多剤耐性結核患者の病気の受けとめと入院生活で感じていること

平成 20 年度結核研究所保健看護学科研修「保健師・看護師基礎・実践コース」(第 1 回・第 2 回・第 3 回)

東京都 (財) 結核予防会結核研究所, 2008 年 10 月 7 日 (第 1 回), 11 月 11 日 (第 2 回), 12 月 2 日 (第 3 回)

島村珠枝 (講演)

多剤耐性結核患者の看護

平成 20 年度結核対策合同アドヴァンスコース

東京都 (財) 結核予防会結核研究所, 2009 年 2 月 2 日

(8) 学会発表

豊田加奈子, 山田亜美, 下平美智代, 堀口智恵, 渡邊麻衣子, 福井里江, 大橋健, 古井祐司, 永井良三

「健康行動自己効力感尺度 (HBSES)」の開発とその有用性の検討
第 51 回日本糖尿病学会, 東京都, 東京国際フォーラム, 2008 年 5 月 22 日～24 日

Kawatsu L, Shimamura T, Nagata Y, Ngamvithayapong-Yanai J
'Now I realise we must get ourselves prepared for TB-HIV co-epidemic' - raising awareness of TB-HIV among public health nurses in Japan
XVII International AIDS Conference (AIDS 2008), México City, Centro Banamex. August 3-8, 2008

鈴木樹美, 永田智子, 村嶋幸代, 戸村ひかり, 武村雪絵
内科病棟看護師への退院支援教育プログラムの作成とその効果
第 12 回日本看護管理学会年次学会, 東京都: 東京大学, 2008 年 8 月 22 日～23 日

Murayama H, Taguchi A, Ryu S, Nagata S, Murashima S
Institutional trust for the government and the municipalities, and anxiety for care in Japan
Horiba-APRU Research Conference, Sep. 8-12, 2008

Shimamura T, Taguchi A, Murashima M
Will I Leave Alive?: The perception and feelings of multidrug-resistant tuberculosis patients in their long-term hospital life
136th American Public Health Association Annual Meeting, San Diego, San Diego Convention Center October 26-29, 2008

Naruse T, Arimoto A, Watai I, Honda A, Taguchi A, Sachiyo Murashima
Spillover of work and family roles of fathers and their emotional support for young mothers
The 136th Annual Meeting of the American Public Health Association, San Diego, San Diego Convention Center, October 25-29, 2008

永田智子, 鷺見尚己
入院中に新たな医療処置を開始した神経難病患者・家族の退院前後のニーズ
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

田口敦子, 永田智子, 村嶋幸代
訪問看護を必要とする要介護高齢者の潜在的な利用者割合とその特徴
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

有本梓, 安齋ひとみ, 宮崎紀枝, 尾崎章子, 鈴木良美, 大森純子, 安武綾, 平野優子, 小林真朝, 長弘佳恵, 龍里奈, 酒井昌子, 麻原きよみ
英文献に基づく「地域保健活動におけるパートナーシップ」に関する概念分析
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

成瀬昂, 田口敦子, 永田智子, 野尻直美, 村嶋幸代, 山田雅子, 田上豊, 福田敬
訪問看護を必要とする要介護高齢者数と訪問看護利用者数の将来推計
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

村山洋史, 兒島智子, 戸丸明子, 立花鈴子, 奈良部晴美, 村嶋幸代
地域包括支援センターとともに開発した地域づくりの手法と評価 (第 3 報)
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

渡邊麻衣子, 豊田加奈子, 山田亜美, 古井祐司
保健指導プログラムにおける HBSESII 活用の取り組み
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

島村珠枝, 永田容子, 小林典子, 田口敦子, 村嶋幸代
ロサンゼルスでの結核看護
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

馬場千恵, 臺有桂, 有本梓, 田口敦子, 永田智子, 村嶋幸代
東京大学大学院修士課程「保健師コース」での地域ケアマネジメント実習
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

新植文枝, 川口祥, 渋井優, 浅水翔太, 有本梓, 田口敦子, 永田智子, 村嶋幸代
東大大学院修士課程「保健師コース」での地域診断・活動展開実習
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

兒島智子, 戸丸明子, 村山洋史, 立花鈴子, 奈良部晴美, 村嶋幸代
地域包括支援センターとともに開発した地域づくりの手法と評価 (第 1 報)
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

戸丸明子, 兒島智子, 村山洋史, 立花鈴子, 奈良部晴美, 村嶋幸代
地域包括支援センターとともに開発した地域づくりの手法と評価 (第 2 報)
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

関根綾希子, 村山洋史, 有本梓, 田口敦子, 大田えりか, 村嶋幸代
農山村地域の中年期男性の世帯構成・婚姻状況・食事支度者に着目した食生活の実態
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

豊田加奈子, 山田亜美, 渡邊麻衣子, 福井里江, 古井祐司
健康行動自己効力感尺度改訂版 (HBSES II) 開発およびその信頼性と妥当性の検討
第 67 回日本公衆衛生学会総会, 福岡県 福岡国際会議場, 2008 年 11 月 5 日～7 日

横山由美, 田中美央, 池田真由美, 川口千鶴
慢性的な病気や障害を持つ児童・生徒への支援 –A 県公立小学校・中学校において–
第 55 回日本学校保健学会, 愛知県 愛知学院大学楠元キャンパス, 2008 年 11 月 14 日～16 日

永田智子, 桑原雄樹, 田口敦子, 村嶋幸代, 八巻心太郎, 吉池裕美子
訪問看護ステーションにおける利用者ごとの業務内容と時間—タイムスタディとヒアリングによる実態調査から—
第 46 回日本医療・病院管理学会学術総会, 静岡県 静岡県立大学, 2008 年 11 月 15 日～16 日

桑原雄樹, 永田智子, 田口敦子, 村嶋幸代
退院前及び在宅療養開始時の訪問看護ステーションにおける業務に関する研究
第 46 回日本医療・病院管理学会学術総会, 静岡県 静岡県立大学, 2008 年 11 月 15 日～16 日

鷺見尚己, 永田智子
終末期がん患者とその家族の退院支援過程におけるニーズ
第 46 回日本医療・病院管理学会学術総会, 静岡県 静岡県立大学, 2008 年 11 月 15 日～16 日

Murayama H, Taguchi A, Murashima S
Activity Involvement of Health Promotion Volunteers, Their Individual Socioeconomic Status, and the Socioeconomic Status of their District Work Areas: Multilevel Analysis in Japan
The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo, St. Luke's College of Nursing, Mar.13-14 2009

Watanabe M, Arimoto A, Murashima S
Self-care agency and factors related to this agency among patients underwent coronary artery bypass grafting living at home: members in peer support group in Japan
The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo, St. Luke's College of Nursing, Mar.13-14 2009

(9) 講演等

村嶋幸代（講演・講師）

福岡県在宅医療推進にかかる研修

「24時間在宅ケアシステムの構築における保健所機能と役割」

吉塚合同庁舎 702号, 2008年6月20日

村嶋幸代（講演・講師）

保健師人材育成「ボトムアップ研修」

講義およびグループワーク、プレゼンテーション演習の指導

世田谷保健福祉センター分室A健診室, 2008年6月30日

村嶋幸代（講演・講師）

地域保健リーダー研修

講義「社会情勢や所属組織等の変化に応じた地域保健活動の方向性」

とちぎ健康の森 大会議室, 2008年7月25日

村嶋幸代（講演・講師）

保健師人材育成「ボトムアップ研修」

講義およびグループワーク、プレゼンテーション演習の指導

世田谷保健福祉センター分室A健診室, 2008年7月31日

村嶋幸代（講演・講師）

講演会

大都市における24時間訪問看護の必要性とその効果

株式会社日本在宅ケア教育研究所 2008年7月31日

村嶋幸代（講演・講師）

市町村保健師等研修会

「保健師の専門性と、今、求められる地域看護活動」

長野県看護協会 看護総合センターながの 4階大会議室, 2008年8月4日

村嶋幸代（講演・講師）

平成20年度 在宅医療推進事業 第1回訪問看護推進支援モデル事業担当者会議

講話「在宅ケアを支える訪問看護の役割と課題」

県庁 保健医療介護部会議室, 2008年8月8日

村嶋幸代（講演・講師）

平成20年度全国保健師長研修会

「保健師教育における臨地実習のあり方」

秋田ビューホテル, 2008年8月28日

村嶋幸代（講師）

【特別講義】在宅看護学演習 I

在宅分野における研究とサービスの質の評価・改善②24時間ケアの実践

聖路加看護大学 2号館 5階, 2008年9月3日

村嶋幸代（講演・講師）

平成20年度地域在宅医療センター研修会

講話「保健所における地域在宅医療支援センター機能について」助言「モデル事業の方向性と評価」

福岡県庁 行政4号会議室（南棟 地下1階）, 2008年10月10日

村嶋幸代（講演・講師）

30周年記念講演

”「みる・つなぐ・動かす」保健師の活動”

とちぎ健康の森, 2008年10月11日

村嶋幸代（座長）

第14回訪問介護・在宅ケア研究交流集会

財団法人 日本教育会館 8階 第三会議室, 2008年11月16日

村嶋幸代（講演・講師）

訪問看護ステーション支援事業「管理者支援研修会」

地域・コミュニティ論

東京都看護協会 会館, 2008年11月29日

村嶋幸代（講演・講師）

平成20年度リーダー保健師等研修会

「伝承すべき保健師活動理念と技術を考える ～今、保健行政の現場で何がおこっているのか～」

奈良県社会福祉総合センター 5階 大会議室, 2008年12月18日

永田智子（講演）

クリティークの考え方と方法、有用性

日本地域看護学会 研究活動推進委員会研修会, 東京大学, 2008年12月26日

村嶋幸代（講演・講師）

平成20年度在宅医療推進事業担当者会議

講話「地域在宅医療支援センターの役割と評価について」

福岡県庁 行政11号会議室（地下1階）, 2009年1月16日

村嶋幸代（講演・講師）

訪問看護ステーション支援事業「管理者支援研修会」

地域・コミュニティ論

東京都看護協会 会館, 2009年1月31日

村嶋幸代（講演・講師）

平成20年度実習施設教育担当者等研修会及び専任教員再教育研修

「保健師教育の質確保は、保健師活動の質確保に直結する」

茨城県立健康プラザ大会議室, 2009年3月26日

（10）その他

村嶋幸代

新春特別座談会「ケアマネジャー「理想と未来を大いに語る」」

シルバー産業新聞, 2009年1月10日

島村珠枝

結核研究奨励賞, 2008年5月9日

島村珠枝

国際エイズ会議(2008年8月3～8日, メキシコシティ)参加報告

複十字, No.324, p.18, 2008年11月15日

3. 研究活動

(1) 抄読会 (毎週火曜日) 前期 2008. 4/8~7/15, 後期 9/16~2009. 3/10

- 4月8日 抄読会オリエンテーション
- 4月15日 中山香映 (文献紹介) : Gamble J, Creedy D, Moyle W, Webster J, McAllister M, Dickson P. Effectiveness of a Counseling Intervention after a Traumatic Childbirth: A Randomized Controlled Trial. BIRTH, 32(1): 11-19, 2005. (クリティーク 野尻)
成瀬昂 : 修士論文経過報告
白石三恵 : 修士論文経過報告
- 4月22日 戸村ひかり (文献紹介) : Brumley R, Enguidanos S, Jamison P, Seitz R, Morgenstern N, Saito S, McIlwane J, Hillary K, Gonzalez J. Increased Satisfaction with Care and Lower Costs: Results of a Randomized Trial of In-Home Palliative Care. Journal of The American Geriatrics Society, 55: 993-1000, 2007. (クリティーク 渡邊)
西岡笑子 : 修士論文経過報告
島村珠枝 : 修士論文経過報告
- 5月13日 野尻直美 (文献紹介) : Mckay W, Maclean W, Bourgeois M. Cluster Analysis of Maternal Characteristics and Perceptions of Child Behavior Problems in a Behavioral Pediatrics Practice. Journal of Developmental and Behavioral Pediatrics, 23(1): 31-36, 2002. (クリティーク 村山 (洋))
岡本美香子 : 修士論文経過報告
- 5月20日 桑原雄樹 (文献紹介) : Markle-Reid M, Weir R, Browne G, Roberts J, Gafni A, Henderson S. Health promotion for frail older home care clients. Journal of Advanced Nursing, 54(3): 381-395, 2006. (クリティーク 永田)
馬場千恵 : 修士論文経過報告
深町美那穂 : 修士論文経過報告
- 5月27日 浅水翔太 (文献紹介) : Barnet B, Liu J, DeVoe M, Alperovitz-Bicbell K, Duggan A K. Home Visiting for Adolescent Mothers: Effects on Parenting, Maternal Life Course, and Primary Care Linkage. Annals of Family Medicine, 5(3): 224-232, 2007. (クリティーク 村山 (陵))
酒井優 : 修士論文経過報告
新井志穂 : 修士論文経過報告
- 6月3日 渋井優 (文献紹介) : Asch SM, Kerr EA, Keeseey J, Adams JL, Setodji CM, Malik S, McGlynn EA. Who Is at Greatest Risk for Receiving Poor-Quality Health Care? The New England Journal of Medicine, 354: 1147-1156, 2006. (クリティーク 田口)
横山由美 (文献紹介) : Lenhard W, Breitenbach E, Ebert H, Schindelbauer-Deutscher HJ, Henm W. Psychological Benefit of Diagnostic Certainty for Mothers of Children With Disabilities: Lessons Form Down Syndrome. American Journal of Medical Genetics, 133A: 170-175, 2005. (クリティーク 戸村)

- 6月10日 川口祥（文献紹介）：Dellve L, Samuelsson L, Tallborn A, Fasth A, Hallberg LR-M. Stress and well-being among parents of children with rare diseases: a prospective intervention study. *Journal of Advanced Nursing* 53(4), 392-402. （クリティーク 春名）
渡邊麻衣子（文献紹介）：Roth DL, Haley WE, Wadley VG, Clay OJ, Howard G Race and Gender Differences in Perceived Caregiver Availability for Community-Dwelling Middle-Aged and Older Adults. *The Gerontologist*, 47(6): 721-729, 2007. （クリティーク 中山）
- 6月17日 廣田真由美（文献紹介）：Kwok T, Lum CM, Chan HS, Ma HM, Lee D, Woo J. A Randomized, Controlled Trial of an Intensive Community Nurse-Supported Discharge Program in Preventing Hospital Readmissions of Older Patients with Chronic Lung Disease. *Journal of the American Geriatrics Society*, 52: 1240-1246, 2004. （クリティーク 村嶋）
田口敦子（地域 topic）：24時間ケア研究, 2008 今年度の事業計画および研究計画
- 6月24日 村山亜矢子（文献紹介）：Johansson G, Huang Q, Lindfors P. A life-span perspective on women's careers, health, and well-being. *Social Science & Medicine*, 65(2007): 685-697. （クリティーク 渡辺）
横山由美：博士論文経過報告
- 7月1日 新槇文枝（文献紹介）：Atlantis E, Chow CM, Kirby A, Singh MF. An effective exercise-based intervention for improving mental health and quality of life measures: a randomized controlled trial. *Preventive Medicine*, 39: 424-434, 2004. （クリティーク 永田）
中山香映：博士論文経過報告
- 7月8日 石塚裕美子（文献紹介）：Koelling TM, Johnson ML, Cody RJ, Aaronson KD. Discharge Education Improves Clinical Outcomes in Patients With Chronic Heart Failure. *Circulation*, 111(2):179-185, 2005. （クリティーク 横山）
（母性 topic 春名）
- 7月15日 渋井優（文献紹介）：Avlund K, Vass M, Kvist K, Hendriksen C, Keiding N. Educational intervention toward preventive home visitors reduced functional decline in community-living older women. *Journal of Clinical Epidemiology*, 60: 954-962, 2007. （クリティーク 田口）
村山洋史：博士論文経過報告
- 9月16日 桑原雄樹（文献紹介）：Gruneir A, Lapane KL, Miller SC, Mor V. Long-term Care Market Competition and Nursing Home Dementia Special Care Units. *Medical Care*, 45: 739-745, 2007. （クリティーク 横山）
石塚裕美子（文献紹介）：Kleinpell RM. Randomized Trial of an Intensive Care Unit-Based Early Discharge Planning Intervention for Critically Ill Elderly Patients. *American Journal of Critical Care*, 13:335-345, 2004. （クリティーク 戸村）

- 9月30日 廣田真由美（文献紹介）：Hegney D, Buikstra E, Chamberlain C, March J, Mckay M, Cope G, Fallon T. Nurse discharge planning in the emergency department: a Toowoomba, Australia, study. *Journal of Clinical Nursing* 15, 1033-1044, 2006. (クリティーク 渋井)
村山亜矢子（文献紹介）：Wang J, Afifi TO, Cox B, Sareen J. Work-Family Conflict and Mental Disorders in the United States: Cross-Sectional Findings From the National Comorbidity Survey. *American Journal of Industrial Medicine* 50: 143-149, 2007. (クリティーク 野尻)
- 10月7日 川口祥（文献紹介）：Anderson L, Vostains P, O'Reilly M. Three-year follow-up of a family support service cohort of children with behavioural problems and their parents: *Child: Care, Health&Development*, 31(4) 469-477 2005. (クリティーク 村山(陵))
浅水翔太（文献紹介）：Kersh J, Hedvat TT, Hauser-cram P, Warfield ME. The contribution of marital quality to the well-being of parents of children with developmental disabilities: *Journal of Intellectual Disability Research*. 50(12): 883-93, 2006. (クリティーク 渡辺(悦))
- 10月14日 新槇文枝（文献紹介）：Johnson SS, Paiva AL, Cummins CO, Johnson JL, Dymont SJ, Wright JA, Prochaska JO, Prochaska JM, Sherman K. Trans-theoretical Model-based multiple Behavior intervention for weight management: Effectiveness on a population basis. *Preventive Medicine*, 46: 238-246, 2008. (クリティーク 廣田)
新井志穂：修士論文経過報告
深町美那穂：修士論文経過報告
- 10月21日 西岡笑子：修士論文経過報告
島村珠枝：修士論文経過報告
成瀬昂：修士論文経過報告
- 10月28日 野尻直美（文献紹介）：Schoenbaum M, Unutzer J, Sherbourne C, Duan N, Rubenstein LV, Miranda J, Meredith LS, Carney MF, Wells Kenneth. Cost-effectiveness of Practice-Initiated Quality Improvement for Depression. *Journal of the American Medical Association*, 286(11): 1325-1330, 2001. (クリティーク 桑原)
学会予行
- 10月30日 岡本美香子（文献紹介）：Dolan LM, Hosker GL, Mallett VT, Allen RE, Smith AR. Stress incontinence and pelvic floor neurophysiology 15 years after the first delivery. *An International Journal of Obstetrics and Gynaecology*, 110: 1107-1114, 2003. (クリティーク 酒井)
新井志穂：修士論文経過報告
西岡笑子：修士論文経過報告
- 11月6日 村山洋史（文献紹介）：Molarius A, Berglund K, Eriksson C, Lambe M, Nordström E, Eriksson HG, Feldman I. Socioeconomic conditions, lifestyle factors, and self-rated health among men and women in Sweden. *European Journal of Public Health*, 17(2): 125-133, 2007. (クリティーク 成瀬)
岡本美香子：修士論文経過報告
馬場千恵：修士論文経過報告

- 11月11日 渋井優：修士論文計画発表
石塚裕美子：修士論文計画発表
廣田真由美：修士論文計画発表
抄読会振興に関するグループワーク等
- 11月18日 渡邊麻衣子（文献紹介）：Lindholm M. Working conditions, psychosocial resources and work stress in nurses and physicians in chief managers' positions. *Journal of Nursing Management*, 14: 300-309, 2008.（クリティーク 村山(亜)）
川口祥：修士論文計画発表
新槿文枝：修士論文計画発表
- 11月25日 中山香映（文献紹介）：Tan MW, Klein MC, Saxell L, Shirkoohy SE, Asrat G How do Physicians and Midwives Manage the Third Stage of Labor?. *Birth*, 35(3): 220-229, 2008.（クリティーク 石塚）
酒井優：修士論文経過報告
村山亜矢子：修士論文計画発表
- 12月2日 渡邊麻衣子（文献紹介）：Sørli T, Busund R, Sexton J, Sexton H, Sørli D. Video information combined with individualized information sessions: Effects upon emotional well-being following coronary artery bypass surgery- A randomized trial. *Patient Education and Counseling*, 6(2): 180-188, 2007.（クリティーク 新槿）
桑原雄樹：修士論文計画発表
戸村ひかり：博士論文計画発表
- 12月9日 春名めぐみ（文献紹介）：Heh SS, Huang LH, Ho SM, Fu YY, Wang LL. Effectiveness of an Exercise Support Program in Reducing the Severity of Postnatal Depression in Taiwanese Women. *Birth*, 35(1): 60-65, 2008.（クリティーク 川口）
野尻直美：博士論文計画発表
渡邊麻衣子：博士論文計画発表
- 12月16日 戸村ひかり（文献紹介）：Shyu YI, Chen MC, Chen ST, Wang HP, Shao JH. A family caregiver-oriented discharge planning program for older stroke patients and their family caregivers. *Journal of Clinical Nursing*, 17: 2497-2508, 2008.（クリティーク 有本）
中山香映：博士論文経過報告
横山由美：博士論文経過報告
- 1月6日 修士論文サポート(グループ別)各3名
- 1月13日 修士論文サポート(グループ別)各3名
- 1月20日 修士論文発表予行(グループ別)各3名

- 1月26日 新井志穂：修士論文発表予行
馬場千恵：修士論文発表予行
酒井優：修士論文発表予行
- 1月27日 深町美那穂：修士論文発表予行
西岡笑子：修士論文発表予行
白石三恵：修士論文発表予行
成瀬昂：修士論文発表予行
岡本美香子：修士論文発表予行
島村珠枝：修士論文発表予行
- 2月3日 戸村ひかり（文献紹介）：Sisk JE, Hebert PL, Horowitz CR, McLaughlin MA, Wang JJ, Chassin MR. Effects of Nurse Management on the Quality of Heart Failure Care in Minority Communities. *Annals of Internal Medicine*, 145(4): 273-283, 2006.（クリティーク 野尻）
村山亜矢子：修士論文経過報告
渋井優：修士論文経過報告
- 2月10日 中山（文献紹介）：Le Ray C, Goffinet F, Palot M, Garel M, Blondel B. Factors Associated with the Choice of Delivery without Epidural Analgesia in Women at Low Risk in France. *Birth*, 35(3):171-178, 2008.（クリティーク 渡邊）
廣田真由美：修士論文経過報告
桑原雄樹：修士論文経過報告
- 2月24日 成瀬昂（文献紹介）：Majumdar SR, Lier DA, Beaupre LA, Hanley DA, Maksymowych WP, Juby AG, Bell NR, Morrish DW. Osteoporosis case manager for patients with hip fractures: results of a cost-effectiveness analysis conducted alongside a randomized trial. *Arch Intern Med*, 169(1): 25-31, 2009.（クリティーク 島村）
川口祥：修士論文経過報告
石塚裕美子：修士論文経過報告
- 3月3日 横山由美（文献紹介）：Crowley AA, Sabatelli RM. Collaborative childcare health consultation: a conceptual model. *Journal for Specialists in Pediatric Nursing*, 13(2): 74-88, 2008.（クリティーク 白石）
新楨文枝：修士論文経過報告
- 3月10日 岡本美香子（文献紹介）：Press JZ, Klein MC, Kaczorowski J, Liston RM, von Dadelszen P. Do Cesarean Section Reduce Postpartum Urinary Incontinence? A Systematic Review. *BIRTH*, 34(3): 228-237, 2007.（クリティーク 西岡）
学会予行（EAFONS）

(2) 研究会

	日程	講師およびテーマ (敬称略)
第151回	2008年 4月17日	筒井孝子 (国立保健医療科学院 福祉サービス部 福祉マネジメント室) 「看護必要度の研究と応用」
第152回	5月16日	高階恵美子 (社団法人日本看護協会) 「診療報酬の改定と訪問看護ステーションの今後—成熟社会に対応する在宅ケア拡充のために—」
第153回	6月27日	宇都宮宏子 (京都大学医学部附属病院 地域ネットワーク医療部) 「急性期病院における退院支援の取り組み —病棟看護師・退院調整看護師の役割を考える—」
第154回	7月24日	萩原正子 (日本訪問看護振興財団 事業部) 「訪問看護ステーションの経営の現状と展望」
第155回	10月1日	山口拓洋 (東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター 臨床試験データ管理学講座) 「地域やグループを対象とした研究の計画・解析」
第156回	10月17日	勝又浜子 (厚生労働省 保健指導室) 「最新の地域保健の動向と保健師活動」
第157回	11月21日	片岡裕介 (東京大学空間情報科学研究センター) 「保健医療分野における地域分析とGIS活用の可能性」
第158回	12月17日	岡本茂雄 (セントケア・ホールディング株式会社 事業推進部&ヘルスケア事業部) 「現場から見た訪問看護ステーションの収支構造」
第159回	12月19日	野口晴子 (国立社会保障・人口問題研究所) 「持続可能な新しい公共モデルに関する調査研究 ～介護サービス市場に関する定量的経済分析の結果から～」
	2009年	
第160回	3月3日	畑中純子 (NTT 東日本首都圏健康管理センタ) 「産業保健師の質維持、向上についての計画」
第161回	3月27日	小山秀夫 (静岡県立大学) 「在宅ケアと訪問看護ステーションの経営」

(3) 研究プロジェクト

村嶋幸代, 内藤智雄, 後閑容子, 山田雅子, 田上豊, 福田敬, 竹内美和枝, 石原多佳子, 永田智子,
田口敦子, 有本梓, 臺有佳

複数の訪問看護ステーションによる地域単位の 24 時間訪問介護・看護の効果的・効率的な実施方法の
開発研究

平成 20 年度厚生労働省労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業

村嶋幸代, 秋山弘子, 大内尉義, 川越雅弘, 神野直彦, 辻哲夫, 三上裕司, 森田朗, 山田雅子,
福田敬, 永田智子, 田口敦子, 野尻直美, 成瀬昂, 桑原雄樹

訪問看護需給計画策定に関する調査研究

平成 20 年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業分)

川原千香子, 鳥海房枝, 永田智子, 安田和弘, 星芝由美子

平成 20 年度 東京消防庁委託事業 救急需要対策に関する調査研究

永江尚美, 飯田芳枝, 堀幸子, 戸森良江, 柳瀬厚子, 山科美絵, 村嶋幸代, 永田智子, 大木幸代, 秋
山正子, 川又協子

保健所機能を活かした地域の保健・医療 (看護)・福祉の連携強化

平成 20 年度全国保健師長会調査研究事業

永田智子, 戸村ひかり, 石塚裕美子, 廣田真由美, 田口敦子, 有本梓, 村嶋幸代

地域ケアにおける看護連携ガイドラインの作成—外来と在宅ケア機関に焦点を当てて—

平成 20 年度科学研究費基盤研究 (B)

有本梓

多職種チームによる児童虐待予防—個別支援プロセス評価尺度の開発と有用性の検証

平成 19-20 年度科学研究費補助金若手研究 (スタートアップ)

島村珠枝

結核の拡大を防ぎ、治癒を促す、予防的看護技術の明確化

平成 20 年度笹川科学研究助成

(4) 教室内勉強会

夏の尺尺会 (2008年7月28日～9月11日)

テキスト：ナンシー・バーンズ, スーザン・K. グローブ著, 黒田裕子, 中木高夫, 小田正枝, 逸見功監訳. バーンズ&グローブ 看護研究入門—実施・評価・活用—. 東京, エルゼビア・ジャパン, 2007.

日程	テーマ	担当	
I. 看護研究入門：実施・評価・活用			
7月28日	第5章	研究問題と目的	渡邊
	第6章	関連文献のレビュー	渡邊
	第7章	枠組み	村山 (亜)
	第8章	目的、疑問、および仮説	渋井
7月30日	第9章	倫理と研究	野尻
	第10章	量的研究デザインを理解する	渋井
	第11章	量的研究デザインの選択	川口
	第12章	成果研究	野尻
7月31日	第13章	介入研究	廣田
	第14章	標本抽出	桑原
	第15章	測定概念	浅水
	第16章	看護における測定方略	浅水
9月8日	第17章	データを収集し、管理する	戸村
	第26章	量的研究の批判的分析	石塚
	第28章	研究採択へ向けた研究計画書の作成	戸村、渡邊
II. レビュー論文とクリティーク			
7月29日	システムティックレビュー・メタ統合・概念分析の方法 (ビデオ)		
8月5日	レビュー論文の書き方と紹介	戸村	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 錦戸典子ら. 保健師活動におけるグループ支援の方向性と特徴 - 既知見の統合による概念枠組み構築の試み -. 日本地域看護学会誌 2005; 8(1): 46-52. ・ 平井寛, 近藤克則. 高齢者の「閉じこもり」に関する文献学的研究. 日本公衆衛生雑誌 2007; 4(5): 293-303. 		
9月9日	概念枠組み、デザイン、サブストラクションのグループワーク		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都筑千景, 金川克子. 産後一ヶ月前後の母親に対する看護職による家庭訪問の効果. 日本公衆衛生雑誌 2002; 49(11): 1142-1151. ・ 種田行男ら. 変形性膝関節症を有する高齢者を対象とした運動介入による. 地域保健プログラムの効果. 無作為化比較試験による 日本公衆衛生雑誌 2008; 55(4): 228-237. 		
9月11日	概念枠組み、デザイン、サブストラクションのグループワーク		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平岡康子ら. 乳幼児をもつ就労女性の育児ストレスと職業性ストレスの分析. 小児保健研究 2004; 63(3): 642-652. ・ 杉本昌子ら. 多胎児をもつ母親の不安状態と関連要因についての検討—単体児の母親との比較分析から—. 日本公衆衛生雑誌 2008; 55(4): 213-220. 		

Neighborhoods and Health 勉強会 (2008年5月2日～7月25日、毎週金曜日、午前8時～9時)
 テキスト: Kawachi I, Berkman LF. *Neighborhoods and Health*. New York: Oxford University Press, 2003.

日程		テーマ・論文	担当
5月2日	第1章	Introduction.	村山・成瀬
5月9日	第3章	The Examination of neighborhood Effects on Health.	戸村・渡邊
5月16日	第4章	Multilevel Methods for public Health Research.	成瀬・渡邊
5月23日	第4章	Multilevel Methods for public Health Research.	渋井・浅水
5月30日	第5章	The Quantitative Assessment of Neighborhood Social Environment.	廣田・戸村
6月6日	第6章	Neighborhood-Level Context and Health.	渡邊
6月13日	第7章	Geocoding and Measurement of Neighborhood Socioeconomic Position: A U.S. Perspective.	村山・戸村
6月20日	第8章	Area-Based Deprivation Measures: A U.K. Perspective.	島村・浅水
6月27日	第9章	Neighborhoods and Infectious Diseases.	島村・渡邊
	第10章	Infant Health: Race, Risk, and Residence.	
7月4日	第11章	Putting Asthma into Context: Community Influence on Risk, Behavior, and Intervention.	廣田・渋井
7月11日	第12章	Residential Segregation and Health.	浅水・成瀬
	第13章	Neighborhoods and Networks: The Construction of Safe Places and bridge.	
7月18日	第14章	Neighborhoods, Aging, and Functional Limitations.	廣田・渋井
7月25日	第15章	Neighborhoods, Health Research, and Its Relevance to public Policy.	村山

4. 教育活動

(1) 学部講義

1) 地域看護学 3年後期Ⅰ・Ⅱ (4単位)

担当： 村嶋幸代／永田智子／田口敦子／有本梓

期間：Ⅰ 平成20年10月23日～平成20年12月4日 木曜日 13:00～16:10

Ⅱ 平成20年12月10日～平成20年2月4日 水曜日 9:00～12:10

日程	テーマ	担当
I		
10月23日 (木)	地域看護学の概念、対象と機能、動向	村嶋
10月30日 (木)	母子保健活動論	有本
11月6日 (木)	休講 (日本公衆衛生学会のため)	
11月13日 (木)	感染症と危機管理	河西
11月20日 (木)	在宅看護論1	角田
11月27日 (木)	地域看護の展開事例	小林
12月4日 (木)	地域アセスメント講義および演習1	村嶋・永田・有本・田口
II		
12月10日 (水)	成人保健活動論	錦戸
12月17日 (水)	在宅看護論2	角田
12月24日 (水)	地域アセスメント演習2	菅原・村嶋・永田・有本・田口
2009年		
1月14日 (水)	基礎看護学Ⅲ (12月24日PMの振替え)	
1月21日 (水)	在宅看護論3	角田
1月28日 (水)	地域アセスメント発表会	菅原・村嶋・永田・有本・田口
2月4日 (水)	地域看護学の展望	村嶋

講師	河西あかね	東京都福祉保健局 多摩府中保健所 保健対策課 感染症対策係
	角田直枝	訪問看護振興財団認定看護師教育課程訪問看護学科 主任教員
	小林政子	世田谷区世田谷保健所健康推進課 係長
	錦戸典子	東海大学健康科学部看護学科 教授
	菅原久美子	世田谷区玉川総合支所 保健師

2) 在宅看護論 4年前期 I (2単位)

担当： 村嶋幸代／永田智子／有本梓

期間： 平成20年4月9日～平成20年5月14日 水曜日 9:00～12:10

*4月21日(月)にも講義あり

日程	講義題目	担当
4月9日(水)	介護保険制度／ケアマネジメント	永田
4月16日(水)	ケアマネジメント(演習)	永田・有本
4月21日(月)	在宅ケアシステム・介護予防	村嶋
4月23日(水)	地域から病院へー退院支援	柳澤・永田
4月30日(水)	地域の危機管理	村嶋
5月7日(水)	重症心身障害児の在宅看護	東部訪問看護事業部
5月14日(水)	難病患者への地域看護活動	小西

講師 柳澤 愛子 東京大学医学部附属病院地域医療連携部

小西かおる 昭和大学保健医療学部看護学科地域・在宅看護学

東京都東部訪問看護事業部

(在宅の重症心身障害児(者)対策の一環として、対象者の健康の保持と安定した家庭療育を支援するために、訪問看護事業を実施)

3) 保健指導論 4年前期 I (2単位)

担当： 村嶋幸代／永田智子／田口敦子／有本梓

期間： 平成20年4月10日～平成20年5月15日 13:00～16:10

※ 4月14日(月)は9:00～12:10

5月15日(木)は14:40～17:50

日程	講義題目	担当
4月10日(木)	保健指導概論	村嶋
4月14日(月)	保健指導の方法：地区組織活動・グループ支援 集団指導の立案(演習)	村嶋・田口
4月17日(木)	保健指導の実際：個別指導 ー生活習慣病予防を中心にー	松田
4月24日(木)	保健指導の実際：個別指導 ー特定保健指導プログラム(確定版)よりー	松田
5月1日(木)	保健指導の実際：家庭訪問 健康診査	上野
5月8日(木)	保健指導の実際：家庭訪問 健康診査	上野
5月15日(木)	保健指導の実際：集団指導の実施(演習)	村嶋・永田 有本・田口

講師 上野昌江 大阪府立大学 地域看護学 教授

松田一美 (財)社会保険健康事業財団 保健部 部長

- 4) 生きることを支える科学：看護学の最先端
 対象：駒場学生
 期日：平成20年6月26日
 内容：人々の健康と社会を護る看護の研究（村嶋）
 期日：平成20年7月3日
 内容：退院支援—病院と地域をつなぐ—（永田）
- 5) 健康科学・看護学概論
 対象：健康科学・看護学科 学生
 期日：平成21年1月21日
 内容：人々の健康と生活を支える看護の科学：地域で看護する、地域を看護する、地域に向けて看護する（村嶋）

（2）学部実習

[4年生]

期間：平成20年7月7日（月）～7月18日（金）

実習施設

文京区保健サービスセンター（2名）

文京区保健サービスセンター本郷支所（2名）

世田谷区北沢総合支所健康づくり課（2名）

世田谷区砧総合支所健康づくり課（2名）

（3）大学院特論

1) 地域看護学特論 I

担当：村嶋幸代／永田智子／吉田亨（群馬大学医学部保健学科）

日程：平成20年4月～7月 火曜日 13:00～16:00 金曜日 13:30～16:30

内容：地域看護学の理論・実践・研究について修士レベルの教科書を用いながら学ぶとともに、地域看護活動の方法論の一つである地域組織活動の理論と応用を学ぶ。

主なテキスト：

Demetrius James Porche

Public and Community Health Nursing Practice, A Population-Based Approach, Sage Publications, 2004

4月15日（火）13:30～14:30 オリエンテーション, 打ち合わせ (村嶋)

5月20日（火）13:30～16:30 文献輪読・討議 (村嶋)

16. Evidence-Based Public Health Practice

23日（金）13:30～16:30 地域における組織活動論 I（歴史と理論） (吉田)

6月17日（火）13:30～16:30 文献輪読・討議 (村嶋)

4. Behavioral Health Theories

20日（金）13:30～16:30 地域における組織活動論 II（活動の実際） (吉田)

- 7月1日(火) 13:30~16:30 文献輪読・討議 (村嶋)
 17. Public Health-Community Health Leadership
 18. Communication, Collaboration, Negotiation, & Conflict
- 11日(金) 13:30~16:30 地域における組織活動論Ⅲ (ヘルスプロモーション) (吉田)
- 22日(火) 13:00~16:00 発表・討議 (村嶋)
 Evidence-Based Public Health Practice(Nursing)について

2) 行政看護学特論Ⅰ

担当：村嶋幸代／有本梓／田口敦子

日程：平成20年4月～7月 火曜日 13:30～16:30

内容：行政保健師活動に活用可能なモデルや諸概念を学ぶと共に、地域看護の上級実践に必要な、地域のアセスメント、問題の発見、優先順位の決定、対策立案、実施、評価を、修士レベルの教科書を使いながら学ぶ。

主なテキスト：

Demetrius James Porche

Public and Community Health Nursing Practice, A Population-Based Approach, Sage Publications, 2004

- 4月15日(火) 13:30~14:30 オリエンテーション, 打ち合わせ (村嶋)
- 5月13日(火) 13:30~16:30 文献輪読・討議 (村嶋)
 1. Population-based Public Health Practice
 (+Appendix A: PHN competencies)
 6. Public Health Organizational Assessment
- 27日(火) 13:30~16:30 文献輪読・討議 (村嶋)
 8. Community Assessment & Analysis
- 6月3日(火) 13:30~16:30 文献輪読・討議 (村嶋)
 10. Community Development
- 10日(火) 13:30~16:30 文献輪読・討議 (村嶋)
 12. Public Health-Community Health Program Planning
 13. Program Monitoring & Evaluation
- 24日(火) 13:30~16:30 文献輪読・討議 (村嶋)
 22. Public Health Policy and Politics
 23. Process of Public Health Policy Development"
 25. Public Health Policy Analysis & Evaluation
- 7月8日(火) 13:30~16:30 発表・討議 (村嶋)
 モデルの活用

3) 地域看護学特論Ⅱ

担当：村嶋幸代／永田智子／有本梓

田上豊（三菱総合研究所 ヒューマン・ケア研究グループ主席研究員）

麻原きよみ（聖路加看護大学 地域看護学教授）

日程：原則火曜日

目的：地域看護学に関する研究の現状と課題について、特に在宅ケアを中心として学ぶ。
 また、地域看護学研究の方法論についても学ぶ。

- 9月30日(火) 13:30~14:30 オリエンテーション, 打ち合わせ (村嶋)
- 10月7日(火) 13:30~16:30 文献レビューの方法 (有本)
- 21日(火) 13:30~16:30 対人サービスの評価 (田上)
- 29日(水) 13:30~16:30 質的研究の方法 (麻原)
- 11月11日(金) 18:00~20:00 在宅ケアの社会経済的評価 (田上)
- 26日(水) 13:30~16:30 地域看護実践における倫理に関する研究 (麻原)
- 12月2日(火) 13:30~16:30 地域ケアの評価 (田上)
- 9日(火) 13:30~16:00 発表・討議(文献レビュー) (村嶋・永田)
- 10日(水) 13:30~16:30 発表・討議(文献レビュー) (村嶋・永田)

4) 行政看護学特論II

担当：村嶋幸代／有本梓／田口敦子

山口拓洋 (東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター臨床試験データ管理学 講座長)

勝又浜子 (厚生労働省 健康局総務課 保健指導室 室長)

森田朗 (東京大学 公共政策大学院 法学政治学研究科 教授)

堀井とよみ (滋賀県立大学 人間看護学部人間看護学科 教授)

片岡裕介 (東京大学空間情報科学研究センター 助教)

野口晴子 (国立社会保障・人口問題研究所 室長)

日程：原則火曜日

内容：国や自治体の政策形成のしくみ、自治体の政策立案や制度の運用・評価方法について学び、保健師の施策化への関わり方を理解する。また、研究者として施策化にどのように関わる事ができるかを考える。

主なテキスト：森田朗. 改訂版 現在の行政. 放送大学教育振興会, 2000

この他に、参考文献を配布

- 9月30日(火) 13:30~14:30 オリエンテーション, 打ち合わせ (村嶋)
- 10月1日(水) 18:00~20:00 地域やグループを対象とした研究の計画・解析 (山口)
- 10月14日(火) 13:30~16:30 保健師活動と施策化 (堀井)
- 10月17日(金) 18:00~20:00 最新の地域保健の動向と保健師活動 (勝又)
- 11月21日(金) 18:00~20:00 保健医療分野における地域分析とGIS活用の可能性 (片岡)

12月16日(火) 13:30～16:30 行政学概論 (森田)

12月19日(金) 18:00～20:00 在宅サービス需給の推計方法について (野口)
「持続可能な新しい公共モデルに関する調査研究～介護サービス市場に関する定量的経済分析の結果から～」

(4) 大学院実習

[修士1年：保健師コース]

1) 継続家庭訪問実習

期間：2008年7月～2009年3月

実習施設：東京都在宅重症心身障害児訪問看護事業 東部訪問看護事業部 (3名)

2) 地域診断・活動展開実習

期間：2008年7月17日～9月9日

実習施設：奈良県天理市 保健福祉センター 健康推進課 (1名)

期間：2008年8月8日～9月17日

実習施設：東京都西東京市 福祉部高齢者支援課地域支援係/向台町地域包括支援センター (1名)

期間：2008年7月18日～9月12日

実習施設：財団法人 社会保険健康事業財団 埼玉県支部/ポラスグループ (A企業) (1名)

3) 地域ケアマネジメント実習

期間：2009年1月16日～2月20日

実習施設：川崎市中原区 こども支援室 (1名)

期間：2008年12月1日～12月26日

実習施設：東京都世田谷区 介護予防担当部介護予防課 (1名)

期間：2009年2月17日～3月19日

実習施設：富士電機リテイルシステムズ(株) (B企業) (1名)

[修士1年：看護師コース]

1) 訪問看護実習

期間：2008年6月～12月

実習施設：東京都在宅重症心身障害児訪問看護事業 東部訪問看護事業部 (1名)

期間：2008年10月

実習施設：群馬県高崎市 はるな生活協同組合 訪問看護ステーションほほえみ(1名)

(5) 卒業論文

櫻井 美里 (指導教員：村嶋幸代, 田口敦子)

育児期の家族における健康に対する意識および行動に関する研究

渡邊 るい (指導教員：村嶋幸代, 田口敦子)

女子高校生における主観的健康感と関連要因

(6) 修士論文

新井 志穂 (指導教員：村嶋幸代)

観光バス運転手の運転頻度、食事場所と食品摂取量

酒井 優 (指導教員：村嶋幸代)

農村・山間地域に居住する高齢者の膝関節痛と保健行動

島村 珠枝 (指導教員：村嶋幸代)

結核患者支援における保健師の支援内容の明確化—服薬継続に焦点を当てて—

成瀬 昂 (指導教員：村嶋幸代)

要介護認定者の時間帯別訪問介護・訪問看護の必要者像の明確化

馬場 千恵 (指導教員：村嶋幸代)

乳児を持つ母親の孤独感と社会との関係—家族・友達との接触とソーシャルサポート—

深町 美那穂 (指導教員：村嶋幸代)

乳児期後期の子どもの寝つきと母親の疲労感

(7) 博士論文

小林小百合 (指導教員：村嶋幸代)

グループホームにおける認知症高齢者の「食」に関連したケア—ケア提供者の「食」に対する視点とケアのプロセス—

村山洋史 (指導教員：村嶋幸代)

地域インフォーマル組織とのネットワーク構築を促進するプログラムの開発
—地域包括支援センターにおける有効性の検討—

5. 学内での活動

(1) 委員会活動

村嶋幸代

医学系研究科健康科学看護学専攻 専攻長	平成 15 年 4 月～
東京大学 男女共同参画室 室長	平成 19 年 6 月～
東京大学医学部附属病院看護体制委員会 委員	平成 18 年 5 月～
医学系研究科 男女共同参画委員会 委員	平成 20 年 4 月～

永田智子

医学部健康科学・看護学科 教育委員	平成 19 年 4 月～
-------------------	--------------

有本梓

医学部健康科学・看護学科	
進学生増をはかるワーキンググループ	平成 20 年 1 月～
ポスター・リーフレット作成ワーキンググループ	平成 20 年 9 月～

(2) その他

小林小百合、村山洋史、渡邊麻衣子、戸村ひかり

学術研究業務 平成 20 年 7 月～平成 21 年 3 月

村山洋史

リサーチ・アシスタント (RA) 平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月

(3) 教室内での役割分担

抄読会係 渡邊麻衣子, 浅水翔太, 村山亜矢子

親睦会係 野尻直美, 新植文枝, 石塚裕美子

研究会係 戸村ひかり, 桑原雄樹, 廣田真由美

PC 係 野尻直美, 渋井優, 村山亜矢子

ホームページ係 戸村ひかり, 川口祥, 桑原雄樹

6. 学会における活動

村嶋幸代

日本地域看護学会	
評議員	平成12年6月～
理事	平成12年6月～
研究活動推進委員会 委員長	平成18年9月～
日本公衆衛生学会	
評議員	平成8年7月～
理事	平成14年9月～
公衆衛生看護のあり方委員会 委員長	平成17年9月～
日本看護科学学会	
理事	平成19年12月～
評議員	平成19年12月～
英文誌編集委員会 委員長	平成20年2月～
表彰論文選考委員	平成20年2月～
日本民族衛生学会	
評議員	平成4年10月～
日本老年医学会	
学術評議員	平成15年4月～
日本看護研究学会	
評議員	平成19年4月～
日本老年社会学会	
評議員	平成19年4月～
日本ルーラルナーシング学会	
評議員	平成20年9月～
Public Health Nursing (Journal)	
Reviewer	平成12年6月～
EAFONS (The East Asian Forum of Nursing Scholars)	平成19年4月～
Board Member	
Sigma Theta Tau. Alpha Kappa Chapter-at-Large (University of Colorado and Regis University joint chapter)	
Member	平成12年12月～
International Conference on Community Health Nursing Research	
Member	平成7年～
American Public Health Association	
Member	平成8年～
田口敦子	
日本地域看護学会	
研究活動推進委員会	平成18年4月～

有本梓

日本地域看護学会
研究活動推進委員会

平成 19 年 4 月～

村山洋史

Environmental Health and Preventive Medicine
Guest Reviewer

平成 20 年 8 月～

横山由美

日本新生児看護学会
評議員

平成 10 年 11 月～

7. 社会的活動

村嶋幸代

厚生省医療関係者審議会専門委員（保健師助産師看護師部会員）	
保健師国家試験 KV 委員	平成 17 年 11 月～
日本看護系大学協議会	
幹事	平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月
看護学教育評価機関検討委員会 委員長	平成 17 年 4 月～平成 21 年 3 月
国際交流推進委員会 委員長	平成 19 年 5 月～
12th EAFONS 開催委員会 委員長	平成 20 年 4 月～
高等教育行政対策委員会 委員	平成 17 年 6 月～平成 21 年 3 月
全国保健師教育機関協議会	
会長	平成 18 年 4 月～
日本学術振興会	
特別研究員等審査会専門委員	平成 17 年 8 月～
国際事業委員会書面審査員	平成 17 年 8 月～
財団法人医療科学研究所研究助成審査委員	平成 9 年～
評議員	平成 15 年 6 月～
財団法人日本訪問看護振興財団	
研究助成金審査委員長	平成 12 年度～
財団法人中山科学振興財団	
評議員	平成 16 年度～
東京都介護認定平準化推進委員会	
委員	平成 17 年度
世田谷区地域包括支援センター運営協議会	
委員	平成 20 年 4 月～
東京の地域ケアを推進する会議「専門部会 B」	
専門委員	平成 20 年 7 月～

永田智子

文京区介護保険認定審査会委員	平成 17 年 4 月～
日本看護系大学協議会	
看護学教育評価機関検討委員会協力者	平成 17 年 4 月～
国際交流推進委員会協力者	平成 20 年 4 月～
12th EAFONS 開催委員会委員	平成 20 年 4 月～

有本梓

日本看護系大学協議会	
看護学教育評価機関検討委員会協力者	平成 19 年 4 月～
国際交流推進委員会協力者	平成 19 年 4 月～

8. 教室日誌

2008年	4月8日	ウェルカムランチ（研究室）
	4月17日	新年度顔合わせ会（東大構内「学士会館分館」）
	6月	川添麻紀子 事務員 採用
	7月15・22日	夏の大掃除
	7月22日	納涼会（本郷「炭火焼だん」）
	8月	片田道子 事務員 退職
	12月10日	忘年会（本郷「こんがり」）
	12月17日	年末大掃除
	12月	松井優子 事務員 退職
2009年	1月	竹田由美 事務員 採用
	3月16日	年度末大掃除
	3月16日	送別会（本郷「ペジーブル」）

9. 教室員名簿 (2008 年度)

教授	村嶋幸代		
非常勤講師	田上豊 上野昌江	吉田亨 錦戸典子	麻原きよみ 角田直枝
講師	永田智子		
助教	田口敦子	有本梓	
事務員	堀美奈子 片田道子 (2008 年 8 月まで) 松井優子 (2008 年 12 月まで) 竹田由美 (2009 年 1 月～)	山口千鶴子	遠藤裕子 土肥原洋美 川添麻紀子 (2008 年 6 月～)
大学院生 (博士課程)	小林小百合 戸村ひかり 武内奈緒子・松永篤志(休学中)	村山洋史 野尻直美	横山由美 渡邊麻衣子
大学院生 (修士課程)	新井志穂 成瀬昂 浅水翔太 川口祥 廣田真由美 麦田真秀人・川本晃子・土屋智美 (休学中)	島村珠枝 馬場千恵 新植文枝 桑原雄樹 村山亜矢子	酒井優 深町美那穂 石塚裕美子 渋井優
客員研究員	上原ます子 尾形由起子 蔭山正子 鈴木樹美 玉木健太郎 中山かおり 吉岡京子	大島浩子 小澤乃智子 斉藤恵美子 鷺見尚己 田畑まりえ 服部真理子 渡井いずみ	岡田麻里 小西かおる 島田陽子 高橋美砂子 中川泉 本田亜起子
教室研究生	伊藤麻子 関口和子 當山紀子	川崎千恵 関根綾希子	白戸舞 長弘佳恵
卒論生	渡邊るい	櫻井美里	